

# 学生目線で地域活性化

福井大、県立大、福井工大の学生  
9人が6日、大野市内で地方創生を  
テーマにフィールドワーク(現地調  
査)を行った。人口減少、少子高齢  
化などの課題を抱える地域の潜在的  
な力や活性化のヒントを探った。

(竹内史幸)



## 七間通り歩き魅力探る

大野・県内9人

福井大の小島慶蔵特任教授が、県内大学の学生を対象に行っている共通講義「これからの地方創生と経営学」の一環で現地学習を企画。学生は小京都と呼ばれる大野のまちを歩き、七間通りでは名物の朝市や古民家風のカフェなどを見て回った。

福井大教育学部2年の新保朋美さん(19)は「以前来たときと違って、おしゃれなカフェもあって地域創生の工夫を感じた」と話していた。

この後、大野商工会議所で稲山幹夫会頭の講義があり、大野の冬の味覚「でっちようかん」が「越前おおのでっち羊かん」として特許庁の地域団体商標に登録されたことや、活性化を図る主要イベントなどについて説明を受けた。

学生からは「大野の良さを知らなかったのもっと発信する」といふ思いとの意見が出た。

スターランドさかだに、白山ワイナリー、六呂師高原なども見学した。

七間朝市を見学する大学生ら。左は福井大の小島特任教授。6日、大野市の七間通り